

長崎県立川棚高等学校

開校記念日 6月25日



本校は今年で創立81年目を迎えました。本校が誕生したのは、昭和16年4月です。場所は川棚町中組郷で、現在の川棚小学校の向かい側付近です。ここには、東彼杵郡の農家の方々が資金を出し合って運営していた生糸を作る、東栄社という工場がありました。この工場の設立から運営に携わっていた高月信吉（たかつき のぶきち）先生の情熱で、この工場の建物・施設を転用して川棚農学校が、県下2番目の農学校として発足しました。この認可が県から下りたのが、この年の6月25日です。そのため、この日を開校記念日としています。



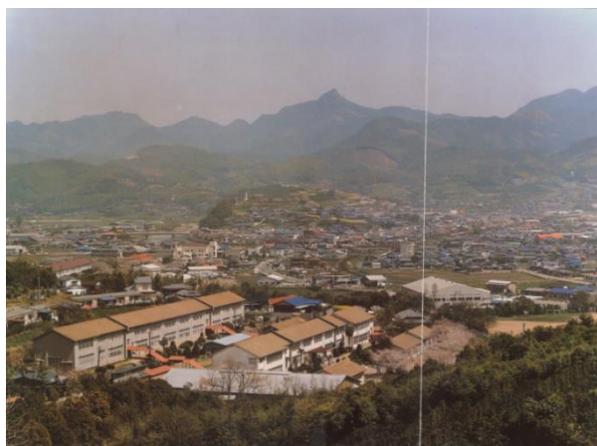
学校が発足したころは苦労の連続でしたが、新入生は、地元の人達がお金を出し合って作ってくれた学校で学べるということが大きな喜びであったそうです。しかし、その年の12月8日に太平洋戦争が始まり、昭和19年の8月には県下中等学校に学徒動員令が発令され、本校の生徒も動員され戦死をした人もいました。

昭和20年8月15日に終戦となり、その10日後の8月25日に校舎を移転しました。場所は現在駅近くのマルキョウの裏にあるコバレントという会社の敷地になっている所です。

昭和21年に県立川棚農学校となり、23年には県立川棚高校となりました。

昭和27年に現在の「自律・信愛・究理」校訓が制定されました。このころから普通科の希望者が多くなってきたこともあり、農業科は翌28年に廃止され、家政科が新設されました。学校全体に勢いが増してきて、学校行事も盛んになってきました。特に、遠足は4月・9月・2月の年に3回もあったということです。

その後、校舎建築が進み、昭和30年から31年にかけて現在の場所に校舎ができました。体育館が完成していなかったため、卒業式を校舎の廊下で行った年もあったそうです。私達の先輩方は、新校舎を本当に大切にしていきました。床は必ず雑巾がけをして、ピカピカに光るまで掃除をしていたそうです。川高の掃除は県下でも評判だったそうです。



昭和56年から現校舎への改築工事が始まり川高は進学で有名になってきました。ピーク時には普通科160名の中で、100名以上が国公立大に合格するといった、国公立大合格率が県下でトップクラスの学校となり、「すごく勉強をする学校」という評判が定着していました。

私達の学ぶ川棚高校は、地元の人達が苦勞をしながら作ってくださった学校です。先輩方は施設設備に恵まれない時にも懸命に学んできました。その先輩たちの学校生活が、一日一日積み重なって伝統となり、今に至っています。このように誇るべき伝統を、先輩たちが築き上げてくれました。その伝統を私たちが引き継いでいるのです。

現在、私達の日々の過ごし方は、未来の後輩たちが引き継ぐに値するものなのか、これを機会に今一度みんなで考えてみましょう。今年度は新たな節目に向けての1年となります。私たちの力でこれからも川高を盛り上げていきましょう。



飛躍 ~小さな積み重ねを大きな一歩へ~